

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.4</b>	
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>		<b>-</b>	<b>3.2</b>	
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15		<b>-</b>	<b>3.0</b>	
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40		<b>3.0</b>		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40		<b>-</b>		
1 開口部遮音性能				3.0	0.30		<b>3.0</b>		
2 界壁遮音性能				3.0	0.30		<b>3.0</b>		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20		<b>3.0</b>		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20		<b>3.0</b>		
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20		<b>3.0</b>		
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.4</b>	0.35		<b>-</b>	<b>3.4</b>	
2.1 室温制御				<b>3.8</b>	0.50		<b>-</b>		
1 室温				3.0	0.60		<b>3.0</b>		
2 外皮性能		Low-e複層ガラス等を使用し外皮性能の向上		5.0	0.40		<b>3.0</b>		
3 ゾーン別制御性					-		<b>-</b>		
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20		<b>3.0</b>		
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30		<b>3.0</b>		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.1</b>	0.25		<b>-</b>	<b>3.1</b>	
3.1 昼光利用				<b>3.4</b>	0.30		<b>-</b>		
1 昼光率				3.0	0.60		<b>3.0</b>		
2 方位別開口					-		<b>3.0</b>		
3 昼光利用設備		共用部にトップライトを設置		4.0	0.40		<b>3.0</b>		
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30		<b>-</b>		
1 昼光制御				3.0	1.00		<b>3.0</b>		
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15		<b>3.0</b>		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25		<b>3.0</b>		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.4</b>	0.25		<b>-</b>	<b>3.4</b>	
4.1 発生源対策				<b>3.0</b>	0.50		<b>-</b>		
1 化学汚染物質				3.0	1.00		<b>3.0</b>		
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.30		<b>-</b>		
1 換気量				3.0	0.33		<b>3.0</b>		
2 自然換気性能				3.0	0.33		<b>3.0</b>		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33		<b>3.0</b>		
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20		<b>-</b>		
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-		<b>-</b>		
2 喫煙の制御		事業主方針により、キャンパス校内全面禁煙		5.0	1.00		<b>-</b>		
<b>Q2 サービス性能</b>				<b>-</b>	<b>0.30</b>		<b>-</b>	<b>3.4</b>	
<b>1 機能性</b>				<b>3.3</b>	0.40		<b>-</b>	<b>3.3</b>	
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.0</b>	0.40		<b>-</b>		
1 広さ・収納性				3.0	-		<b>3.0</b>		
2 高度情報通信設備対応					-		<b>-</b>		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00		<b>-</b>		
1.2 心理性・快適性				<b>2.5</b>	0.30		<b>-</b>		
1 広さ感・景観				2.0	0.50		<b>3.0</b>		
2 リフレッシュスペース					-		<b>-</b>		
3 内装計画				3.0	0.50		<b>-</b>		
1.3 維持管理				<b>4.5</b>	0.30		<b>-</b>		
1 維持管理に配慮した設計		床素材はビニルシートなど維持管理に配慮		5.0	0.50		<b>-</b>		
2 維持管理用機能の確保		SKや倉庫など維持管理に必要な諸室を適宜配置		4.0	0.50		<b>-</b>		
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.7</b>	0.30		<b>-</b>	<b>3.7</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>4.0</b>	0.50		<b>-</b>		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		耐震グレードは基準法×1.25倍で検討		4.0	0.80		<b>-</b>		
2 免震・制震・制振性能		揺れを抑えるため、ブレース付きラーメン構造の導入をし、部分的に地震時・強風時に内部設備保護が図られる		4.0	0.20		<b>-</b>		
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.4</b>	0.30		<b>-</b>		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		<b>-</b>		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		<b>-</b>		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		<b>-</b>		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトはガルバリウム製を採用		5.0	0.10		<b>-</b>		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、汚水排水・雑排水VP(B)、通気VP(A)、Eは不使用		5.0	0.20		<b>-</b>		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		<b>-</b>		
2.4 信頼性				<b>3.4</b>	0.20		<b>-</b>		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		<b>-</b>		
2 給排水・衛生設備		井水利用、非常用汚水槽の設置、受水槽に水道蛇口の設置		4.0	0.20		<b>-</b>		
3 電気設備				3.0	0.20		<b>-</b>		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスAを採用		4.0	0.20		<b>-</b>		
5 通信・情報設備				3.0	0.20		<b>-</b>		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	実習室や講義室は、各階4m以上の階高	4.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	3.0	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	全館ケーブルラックを採用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	全館ケーブルラックを採用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		外構や建築物に緑化を計画	4.0	0.30	-	-	4.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		キャンパス内の既存建物と緑と調和した外装計画	4.0	0.40	-	-	4.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			3.0	0.30	-	-	3.0
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			3.0	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI=0.6	5.0	0.20	-	-	5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>		共用部にトップライトを設置	4.0	0.10	-	-	4.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.87	2.6	0.50	-	-	2.6
<b>4 効率的運用</b>			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>			3.8	0.20	-	-	3.8
<b>1.1 節水</b>		節水コマに加えて、擬音装置を採用	4.0	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用設備の導入	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			3.0	0.60	-	-	3.0
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.11	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.22	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.22	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		-	1.0	0.22	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			-	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		OAフロアや軽鉄下地を使用	5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			3.0	0.20	-	-	3.0
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			3.0	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出率91%	3.3	0.33	-	-	3.3
<b>2 地域環境への配慮</b>			2.8	0.33	-	-	2.8
<b>2.1 大気汚染防止</b>			3.0	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			3.0	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			3.1	0.33	-	-	3.1
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明の採用なし、光害対策ガイドライン一部満たしている	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	